

65 オキユペーシヨナル・セラピー

(OT)の発展—米国と日本の比較—

鈴木明子

職種の誕生

二十世紀初頭に米国で誕生した職種が日本にも持込まれて発展している。その名称は創立の原動力となった George E. Barton (一八七一一九三三) がボストンの有名な建築士で、欧州の留学後に幾度となく結核で倒れたことによる。小康の合い間に低所得者の住宅の調査に出て、左足首の切断と左半身マヒの身体となった。凍傷で瘻疽を起したのである。死の床から再起し、「職業の遂行のプロセスが疾病の原因となるならば、そのプロセスが必ず治療として役に立つに違いない」と信じ、Occupational Therapy (OT) と名付けた。そして全米で精神病患者、身体障害者、結核その他で苦しむ人達に貢献していた人達を選んで協会を創立した。一九一七年であった。

合計七名が創立者となり、バートンが協会の初代会長に選立された。他の六名も優秀な人達であった。

精神科医の William Duntton (一八六六一九六六) の

活躍は多面に亘り、著書は加藤普佐次郎に日本での作業療法を創らせることとなった。精神科ソーシャルワーカーでコロンビア大学で学んだ Eleanor Stagle (一八七六一九四二) は学問上と行政面でも力を発揮した。精神科看護婦の Susan Tracy (一八六四一九二八) もコロンビア大学で学んだ。Susan Johnson (一八七六一九三三) はその大学で看護学生に手工芸を教えていた。そしていろいろな所に OT 科を設立した。Thomas Kidner (一八六六一九三三) は英国の建築士でカナダから米国の職業カウンセラーとして呼ばれていた。Isabel Barton (一八九一一九七五) は秘書として活躍し、バートンの著書、講演などを援助した。

バートンは片手だけで木工用具を何百と創り家屋を改造し、医学を独学して身心の動きを治療に活用した。その回復力に感銘を受けた主治医が彼に結核患者を依頼することとなった。

米国の発展

七名で始つたOTは一九九四年、二一六の大学で教育を行い、約五万人の協会員を有する。会員は薬もメスも放射線も用いない医療職として、病院、リハビリテーションセンター、養護学校、刑務所、一般企業、老人ホームなど広範囲の職域を持つている。

まるでオリンピックの聖火のように、OTの理念と哲学に向つて会員が情熱と努力の灯油を注ぎ続けているようである。その火がランナーによつて他の国々にも飛び火して、その国の心身障害者へサービスをすることになる。

日本の発展

福祉国家を目指している日本では、マンパワーを必要とする。基礎となる憲法二五条に関わつたサムズ准将に演者は面談したことがあつた。彼の理念としては、「高いレベルの医療職が制度の整備と共に国民へ働きかけて幸せな生活を送ってもらうこと」と話された。

一九六三年国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院が大村潤四郎療養所課長の永年の努力によつて開

校した。金子太郎氏は大蔵省主計局主査の立場で協力した。

一九九四年にOTは七〇八〇名となり、学校数は四七校である。対象者は高齢化社会で増すばかりで、供給が追いつかない。

偶然、日本でのOTの一号となつた演者は一九六〇年コロンビア大学医学部にフルブライト全額支給留學生として学び、米国の資格Occupational Therapist, Registered (OTR)の国家資格を取つた。現在学校づくりでは四校目の北里大学に在る。OTの哲学とは「どの国のどの地方のどの時代にあつても、人の不幸、不自由、不便、苦悩を見過せないことである。そして人として生れた喜びを、生き方の新しく具体的なプロセスを通して建設的に、共に築いていくこと」と思う。

(北里大学医療衛生学部)